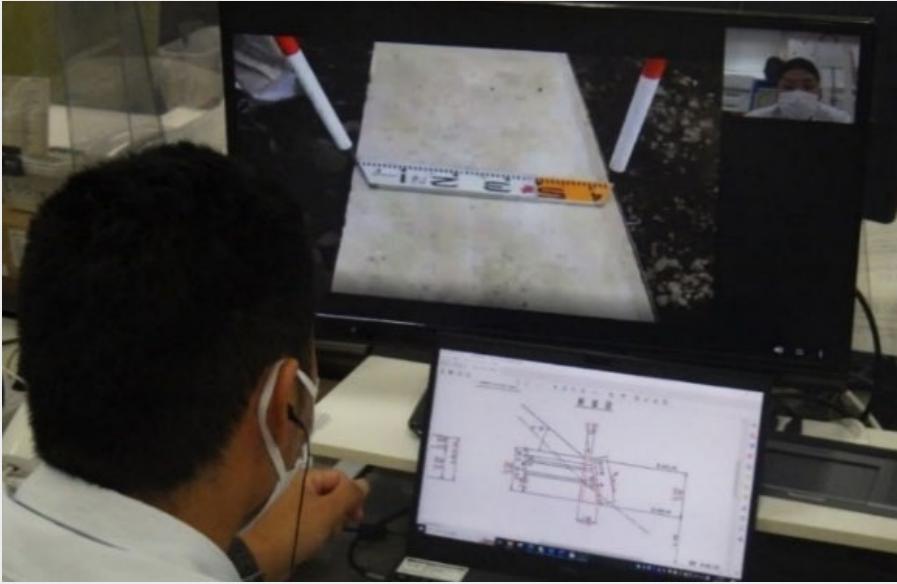


事例 24 先端技術を活用した監督業務の効率化

(近畿中国森林管理局)



- 奈良県奈良市（ならし）
- 遠隔臨場による監督業務の様子。ディスプレイに映っているのはウェアブルカメラで配信された映像

国有林野事業では、監督業務の効率化に向けて、「遠隔臨場」の導入を進めています。「遠隔臨場」とは、監督職員が工事現場で行う段階確認、材料検査、立会について、ウェアラブルカメラ等により映像と音声を森林管理署のモニターに配信することで、監督職員が工事現場に行かずに監督業務を行うことをいいます。

近畿中国森林管理局では、令和4年度において、同局管内の8つの森林管理署等における20件の治山工事の監督業務で遠隔臨場を実施しました。遠隔臨場を導入することにより、工事現場への移動時間が削減できる、臨機応変な立会が可能となる等の効果があり、受発注者双方を対象としたアンケート調査においても「業務の効率化等が図られる取組である」との好意的な意見が多数を占めました。